カレッジ通信

編集・発行
東京建築カレッジ

授業見学大歓迎！
TEL 03(5950)1771

# 東京建築カレッジの独自教育「奈良宿泊研修」

## 木造建築の伝統、技術発展を集中学習

## 現代に生かす実践から刺激を受けた

東京建築カレッジ（以下、カレッジ）の奈良宿泊研修（以下、奈良研修）は、第１期生の２年次（97年度）から一貫して実施している独自教育です。奈良県は国宝級の木造古建築が多数現存し保存修復が常におこなわれる一方、「重要伝統的建造物群保存地区」（伝建地区）などでは古民家の改修・現代化の実践を学ぶことができます。高度な知識、難しい工事をこなせる技術・技能を身に付けた建築従事者をめざす気概もつかみます。11月28日（木）～30日（土）に実施した「２０２４年度　第28期　奈良宿泊研修」をリポートします。

橿原市今井町で伝統的建造物を未来に継承する実践を見学。改修工事全体を統括する設計者と、工事を担当する工務店から話を聞いた。

第１日目：伝建地区の町並みを未来に継承する取り組みを見る
第２日目：飛鳥奈良、天平の古建築遺産と「平城宮第一次大極殿東楼復原工事」を訪ねる
第３日目：巨大建造物はなぜ生まれたか、時代背景と建築技術の進化を学ぶ

### 「日報」から

カレッジは日々の授業の履修確認のため日報提出を義務付けています。奈良研修中の日報から研修生の気持ちを紹介します。

「（今井町）昔の建物や当時の雰囲気が残るように町ぐるみでの保全を行っていることがとても素敵でした」▼「家を再生する←そして何かを創り出すというサイクルにより歴史を築く役割を増井小綾さん（第10期生、宇陀市の伝建地区で暮らす一級建築士）は担っている」▼「念願の法隆寺。世界最古なのかぁ・・・感概深い。現代人の私たちが四苦八苦して学んでいる建築技術。当時の人々はインターネットも機械もないのに、凄いなぁ。私のような平民は建物を見るだけで、おののいていただろうと想像する」▼「竹中工務店さんの仕事現場にお邪魔させていただいて今の自分達に必要な知識やエピソードを聞くことが出来た。この学生生活を無駄にしないよう自分のモノにしていかなければいけないな」▼「あの大きな建造物をすべて手刻み、図面、納まりとかも自分たちで考えていくところにすごく感動した」▼「元設計者のボランティアガイドさんについて東大寺を見る。仕口、継手、荷重のかかる箇所や構造上の説明など、時代別の話はとてもわかりやすかった」。

### 学習の目的は3つ

奈良研修は修学旅行ではありません。正規の授業であり、毎回、学習の目的を確認して臨んでい

裏面に続く

## 人の命を救うために震災前にできることがある

今年の公開講座は 能登半島地震が起きた年であり、「いのちを守るため、大震災の前に危険性診断と適切な対策を」をテーマにしました。サブタイトルの「地域密着の工務店、建築職人だからできることがある！」 には、建築従事者の使命の自覚の意味を込めました（11月16日）。

工事現場見学はカレッジ奈良研修の魅力。建築従事者育成の意義を説明し、貴重な機会を提供していただく

ます。今年度掲げた3つの目的は次の通りです。

Ⅰ、奈良県は、国宝・重要文化財の木造建造物が集中して存在飛鳥奈良時代からの木造建築の技術と文化の発展史を確認できます。「重要伝統的建造物群保存地区」では、東京では見ることのできない歴史的な町並みの魅力を感じることができます。「奈良宿泊研修」では木の建築の文化と発展の歩みをフィールドワークで学びます。

Ⅱ、建築工事の現場を管理できる人材育成をめざす学校として、国宝・重要文化財をはじめとする歴史的建造物の保存改修・復元工事事例を見学します。それらに携わる専門技術者木造建築の生命力を支えている建築技術・技能を確かめます。高度な知識、技術・技能を発揮し、献身されている方々の仕事ぶりと生き方に刺激を受けます。

Ⅲ、見学受け入れ先、お世話をうける方々に感謝しつつ、研修生相互や引率の先生方、理事・事務局との交流を行いながら、カレッジ生活2年間を振り返ります。あと4か月の学習や修了（卒業）後の各自の目標に向けた決意を高め合います。

**レポート提出課題**

この目的に基づいて、学習の成果を確認するため、表紙を除きA4用紙7枚以上のレポート提出を全員に課しています。多くの研修生のとって初めて経験する分量でしょう。これはカレッジが重視するコミュニケーション能力を高める教育、言語教育の一環です。

**夜行方式を中止**

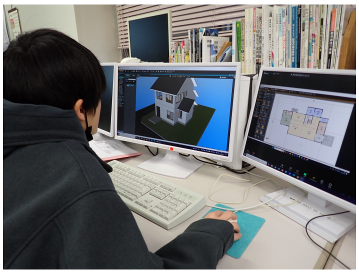
カレッジの奈良研修には「夜行・早朝着」の伝統がありました。費用の抑制と見学先を増やすことが狙いでしたが、「詰め込み主義よりも学習効果を高める行程や運営を探求すべき」「事前学習の充実や見学効果を上げる機器（ガイドの声を聞きやすくする個別イヤホン）を導入しよう」などの意見から、往復新幹線利用、初日は午後から見学、昼食休憩の時間をしっかり取る、学習方法の援助にさらに力を尽くす、などの改革をおこないました。

**1年生の授業から**

## 情報系教育も充実

第29期生（1年生）は、1月下旬の上棟を目指し、江東実習場で実習棟実習に取り組んでいます。自分たちで墨付けし手刻みで建ち上げます。一方、池袋校舎で実施の情報系授業では一人一台のデスクトップパソコンを使って、３Dソフトを使いこなすための演習がおこなわれています。

（下写真は12月7日の授業）



**2年生の授業から**

## 化粧棒隅木の製作

右写真は第28期生（2年生）の今の大工実技実習課題「化粧棒隅木」。ようやく1台を作り上げ、多くの研修生が2台めの製作に入っています。1月の技能照査実技試験の課題であり、毎回の授業には緊張感がみなぎります。大工職はもちろん、設計職や施工管理職の研修生も製作しなければなりません。ものづくりを通して建築の本質を体得するカレッジ教育を象徴する授業です。

東京建築カレッジ　YouTubeチャンネル　で12月末公開予定

第２５回公開講座

「いのちを守るため、大震災の前に危険性診断と適切な対策を」

建築の専門知識と高度な技術･技能を発揮して、人の命を救おう！

建築従事者の視聴学習をお勧めします。学びのお正月を！

入学希望者求む！